

ともしび通信

教会設立



32

周年特別礼拝

● 記念礼拝 6月23日(日) AM10:30~12:00

主題：残るもの 消えるもの

● 記念講演会 同日 PM2:30~3:45

講演：歴史と聖書

特別講師 吉本隆史 先生

緑が丘バプテスト教会牧師 (兵庫県三木市)
元関西単立バプテスト神学校校長、現常務理事、教師



「人はみな草のようで、その栄は、みな草の花のようだ。
草はしおれ、花は散る。しかし、主のことばは、
とこしえに変わることがない。」
聖書 I ペテロの手紙 1章 24節~25節

変化の激しい時代です。社会も、人の心も変わってしまうような中で、自分の人生もまた自分自身も見失うように感じる時があります。教会は今年で32年になりました。遅々とした歩みでしたが、とこしえに変わらない聖書のことばを、宣べ伝え続けられたことは最高の喜びだと感じています。記念集会にぜひお出かけくださり、とこしえに変わらない聖書のことばにふれて戴きたいと願っています。 牧師 松本俊雄

町田バプテスト教会
町田市つくしの2-31-4 【TEL】042-796-3822

集会のご案内

教会の詳細はホームページでもご紹介しています。
<http://goodnews194.com>

日曜礼拝

多忙な日々の中で、うつむき加減になっている顔と心。天を仰いで生きる元気を取り戻して下さい。



毎日曜
I AM10:30~12:00
II PM 4:00~5:00

教会学校

幼児から大人まで、クラスに分かれて聖書を学んでいます。どの世代にあっても聖書の学びは生涯の道しるべとなります。



毎日曜 9:00~10:00

水曜礼拝・祈り会

週の半ばの夜、静かに神を礼拝し、メッセージに耳を傾けます。講解説教で順番に学んでいるので聖書を知りたい方に最適です。



毎水曜 19:30~21:00

壮年会

壮年会では聖書の学びと、賛美集会や教会カフェ、日帰り温泉などサークル的な活動もあります。

毎月第2日曜
13:30~15:00



婦人会

日曜午後の集いは個々に抱えている課題を話しあい、喜びも困難も分かち合う、穏やかなひと時です。

毎月第2日曜
13:30~15:00



青年会

大学生から社会人まで、月1回、ともに集まり賛美をし、語り、励まし合い、祈りあう集いの時です。

毎月第2日曜
13:30~15:00



子育てサークルハンナの会

ハンナの会は子育てに疲れたり、悩んでいるお母様に元気を与える会。お子さまはお預かりします。

毎月第3火曜
10:30~13:00
昼食付



ツールペイントサークル

賛美とメッセージのひととき。花を描きながら心を解放するひととき。お茶を飲み、語らうひととき。

毎月第1水・金 10:00~12:30



木曜婦人集会

家事、育児、仕事に忙しい女性たちがありのままの自分でいられる場所。希望と勇気が与えられる時。

毎週木曜 10:30~12:00

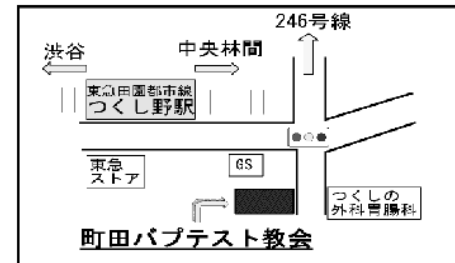


誰にも誕生日があるように6月は町田バプテスト教会の誕生日です。今年で32歳、人生でいえば働き盛り!といったところでしょうか。教会に行ってみたくれど、敷居が高そうで・・・そんな方にぴったり!地域の教会としての歩みに感謝をささげる周年記念礼拝です。みなさまのお越しをお待ちしています。

- 集会は参加自由です。お気軽に、お越しください。
- 質問や相談ごとはどんなことでもお尋ねください。
- 送迎の必要な方は、ご遠慮なくお申し出ください。
- 町田市つくし野 2-31-4
- TEL&FAX 042-796-3822

編集後記

「ともしび通信73号」教会設立32周年特別礼拝号をお届けします。6月23日(日)は町田バプテスト教会の32回目の誕生日。朝の記念礼拝では特別講師の吉本隆史先生から「残るものと消えるもの」と題してのメッセージがあります。午後は「歴史と聖書」をテーマとした先生の講演。世界の歩みと聖書は表裏一体となって歴史を刻んでいます。底流に流れる意味を解説いただけます。



単立 町田バプテスト教会

□町田市つくしの2-31-4 ●<http://goodnews194.com>
□042-796-3822 ●mail: machida@church.email.ne.jp

松本俊雄 牧師室より

私は元々貧乏性で、安い物をする時はいつも値段の安いものを捜して買うようにしていました。しかしある時、「良い物、本物に安いものはありません。多少高くても良いものを買っておけば、いつまでも飽きないし長く使え、得ですよ」と言われました。約20年前、教会堂の土地を捜していた時、集う方々も少なく資金も少額しかありませんでした。毎日、新聞広告や不動産店で、安い物件を捜しました。その時、「良い物、本物には安いものはない」を思い出しました。

考えてみれば売られる方は、少しでも高く売りたい訳ですから、良い土地であるなら当然それだけの価格がある訳です。

もし、あまりに安い価格ならそれなりの原因がある訳ですから、注意しなければならぬと思います。そして、現在の素晴らしい土地が与えられました。聖書に「いつまでも残るものは信仰と希望と愛です。1コリント13・13」とあります。そして、「信仰・希望・愛」はイエス・キリストが私たち一人一人の罪の身代わりとして、十字架で死んでくださったと言った、大きな代価（犠牲）の上に成り立っています。

この機会に教会にお出かけくださり、イエス・キリストを通して与えられる、いつまでも残る「信仰・希望・愛」を知って戴きたいと切に願っています。



朽木の田舎から進学のため上京して来て、大学2年生の春に聖書のことばに出会い信仰を持ちました。しかし、一つ心配がありました。それは、田舎は農家でキリスト教とはまったく関係のない、古い因習の強い所でお寺とも日常的に強く結びついていました。そのような中で、自分だけが急にクリスチャンになったら何と言われるだろうか？ということでした。父母は貧しい農家の生活の中から、大変な無理をして学費を出してくれていました。その父母の期待を裏切りたくないし、また私は6人兄弟の5番目ですので、兄や姉は何と言ったか心配でした。

しかし黙っているのも本意なので、ある年の正月に家族全員の前で、非難を覚悟で思い切って話したのです。

しかし、その時一番上の姉が「一番信頼があり兄弟達のリーダーで、すべては姉の言う通りになりました」、「俊雄は、今まで何をやってもうどうせ直ぐに止めてしまおうのだから困った者だ」と言って、反対に「それが本物なら最後まで続けてごらん」と励ましてくれました。

わたし自身は、少し拍子ぬけしましたが、それから今年で48年経ち、牧師までさせていたでいるのは、私の力や努力ではなく、聖書が確かに「真理のことば」であることの大きな確信になっていきます。



私的映画批評 「再見、また逢う日まで」 2001年中国作品 松本勇哉

今回は、ちょっと趣向を変えて中国の泣ける映画です。

これは、「家族の映画」である。タイトルの「再見（ツァイツェン）」とは、中国語で別れの時のあいさつであり「さようなら」等の意味だ。

ある街に音楽教師の父と母、4人の兄弟姉妹がいた。父は信念と家族のために働き、兄弟は助けあって貧しいながらも笑顔に溢れた生活を送っていた。その矢先、とある理由から4人兄弟が離れ離れになってしまふことになる。



数十年後、バラバラになった兄弟達が大人になったところから話は始まる。

この映画、子どもの頃の回想シーンが多数あるのだが、子役の演技が素晴らしい、離れ離れになる家族の悲しさと、心の繋がりとこのものをヒシヒシと感じさせられる。

教会では、「家族」という言葉はよく使われる。聖書でクリスチャン同士のことを「神の家族」と書いていることによるのだが、今まではあまり意識したことはなかった。しかし、「家族」である以上、クリスチャン同士は「神様」を絆として繋がっており助け合うことができるということだ。教会での「家族」という言葉の意味を改めて考えさせられる映画だった。

婦人会リレー

アナタに出会えて嬉しい



背中を押される恵み 荻野恵子

Ｔさんと初めてお会いしたのは、若いころ通っていた教会でした。その頃、彼女は家族の問題で傷つき、苦しんでいらっやいました。見ていても、とても辛そうでした。私は信仰ということもよくわからないまま、疑心暗鬼と不安でいっぱいでしたが、自分で納得できるなら信仰を持ちたいと葛藤していました。あの日の礼拝の中で牧師が「信仰を持ちたいと思う人は前に出てください。お祈りします」とおっしゃいました。私はドキドキしながら、ただ下を向いていました。

そのとき、Ｔさんが後ろからそっと肩に手をかけて「一緒に行きましょう」と背中を押してくれたのです。私はその温かい手に安心感を覚え牧師の前に進みました。その日から私の信仰生活が始まったのです。その後ほどなくＴさんは天国に召されましたが、あの時の優しい導きの手を忘れたことはなく、今の幸いを思うたび彼女への感謝でいっぱいです。今当時の彼女の年齢をはるかに超えた私は、同じように誰かから背中をソッと押しつけてくれる距離を縮めたいいなと思っています。

青年会リレー 今のキミを忘れない



大切なモノの数々 加藤信行

教会と同じように私も32という歳を迎えました。若かった20代も記憶の奥にしまわれて、いまは、目の前のなすべきことに追われている毎日です。そんな日常であっても、ふと立ち止まって振り返ってみることがあります。あの頃の自分にはひどかったなあという悔恨の念と共々、親に迷惑をかけ、自分のしたいことに突き進んで挫折する。

そんな繰り返しは自分にとって意味があったのかと、落ち込んでしまう気持ちがあふれてきます。人に胸を張って言えるのは、教会に行き続けたこと、大切な友人を得たことくらい。でもそんな20代があつてこそ、いまの自分があるのだと、納得するので。神様の助けがいかにかに素晴らしく、全てを益にして下さるという事実にはただ感謝し前に進んでいけるのは、20代の多くの失敗とそこから回復、そしてその道筋で得た大切なモノの数々があつてこそです。

私がこれからの困難に直面しても、きつといつでも振り返る事ができる。いまもイエス様が私のそばにいてくれるし、いままでも実際にそうだったのですから。